

## 平成25年度第2回佐倉市景観審議会 議事録

日 時	平成25年11月11日（月） 13時00分～17時00分
場 所	佐倉市役所 議会棟1階 全員協議会室
出席者	木下会長、片桐副会長、内田委員、小出(一郎)委員、佐藤委員、関口委員、田邊委員、中島委員（五十音順）

### 内 容

○開会

○会長挨拶

○内容

（1）現地視察 13:00～16:00

[視察箇所]

景観の種類	視察箇所
○眺め、交流拠点	サンセットヒルズ、ふるさと広場
○旧城下町エリア	佐倉城跡西側、旧堀田邸・さくら庭園、佐倉順天堂記念館、新町周辺、武家屋敷
○田園集落系	小篠塚、下勝田
○商業・業務系	ユーカリが丘駅、京成臼井駅、寺崎
○工業系	第三工業団地
○住居系	南ユーカリが丘、中志津、染井野

（2）意見交換 16:00～16:30

木下会長：特に印象に残った点や感想など、ご意見をいただきたい。

委員： 佐倉は明確な特徴を持った地区で構成されているという印象を受けた。エリアごとに景観をどう守っていくかということは、比較的考えやすいのではないかと。逆に各地区の境界部や地形が変化する所など、景観が変化していく所が難しい。市街化調整区域と市街化区域の境目、眺望や低地から望む景観など、エリア内で完結している景観ではなく、エリア間の景観を含めてどう考えていくかということが、景観計画の大きな目的のひとつになるのではと感じた。

委員： 佐倉は変化に富んでいるまちだと感じた。景観の枠組みを考えるときに、自然景観、歴史景観、新しいまち並み景観など、様々なくくり方が考えられるのではないかと。

委員： 本日も案内いただいた所は、それぞれが景観として一級の価値を持っている素晴らしい所だが、案内サイン等のコントロールをどうするかなど、細かな課題はあるように思う。特に、観光に関連している場所は、存在があまり知られていない、広域的に回遊できるようなルートが考えられていないなど、せっかくの資源が活かされていない部分も大きいと感じた。

委員： サンセットヒルズに初めて訪れたが、素晴らしい眺望を見ることができ驚いた。ただ、ふるさと広場などとの連携が残念ながら上手くいっていないため、本当にもったいないという気がする。一方、佐倉市全体に目を向けると、農村があり、都市があり、水辺があり、様々なものが混在しており、一言でいえば素晴らしいのだが、実際にどうやってより良くしていくかという所はなかなか難しい。市民農園などは需要も多く、交流の場でもあるので、休耕地等を利用してもっとできると良いのではないかと。

委員： 佐倉は7地区が合併してできた市だが、それぞれに特徴があると感じている。地区の境界のほとんどが調整区域であり、特に南部地区においては多くが農村地帯である。農地は、後継者不足等により荒れてきている所も多く、農家も努力はしているが限度がある。素晴らしい農業環境をこれからどれほど保つことができるのか。特に谷津田は機械化が難しく、今や人が立ち入ることもできないほど荒れてしまっている場所もある。市街地

は、開発年代が新しくなるにしたがって良いものができてきていると感じた。

委員： 佐倉に住んで約25年になるが、佐倉は広いというのが第一の感想である。ユーカリが丘は今でも開発が進む一方で、昔からある住宅団地では、商店街がシャッター通りとなってしまうと、もう少し活性化できないかという思いはある。第三工業団地は、普段は車で通過するだけの場所だが、企業の敷地間にきちんと植樹帯がある。無機質な建築物に緑があるのは安心感があり、とても良い。住宅街も各家の周辺の植栽が良い所も多く、緑や自然は本当に大きな要素だと感じるので、継続して維持管理していくことも含めて、大切にしていけるようにしたい。

片桐副会長： 景観を保っていくという時に優先順位がとても大切だと感じる。佐倉の特徴として、農村部などは台地と低地の縁に住宅があり、地形に寄り添った一体の景観を形成しているということがあるように思うが、耕作放棄地や資材置き場などが出てくると、どんどん良さが失われていってしまう。そういった所は優先的に取り組んでいくなど、優先順位を見定めて位置付けていくということが必要ではないだろうか。また、ご意見があった地域間の境界部について、細かく見ていくことが重要ではないかと思う。

木下会長： 私も佐倉は非常に景観の多様性に富むまちだと感じた。空間的な多様性だけではなく、様々な時代の層を見せてくれるという点で時間的にも多様である。個々の地区の特徴的な景観をより向上・発展させていくことはもちろん大切であるが、多くの委員が指摘されているように、地区の間、景観が変化する部分を合わせて検討していく必要があるということは大切な視点。景観には様々なスケールがあり、近景～中景～遠景、眺望、道路などにおける変化など様々な捉え方がある。これについては、ぜひ景観計画の中でも検討していきたい。

委員： ご指摘があった休耕地の活用も非常に大切だと感じる。また、人が動いて使っていくということが非常に大切だと思うので、具体的なまちづくり等の活動なども合わせて検討できると良い。

### (3) さくらの景観まちづくり賞について 16:30～17:00

・さくらの景観まちづくり賞について、事務局より説明

委員： 応募物件の評価を記載した講評シートは、今後活用する予定はあるのか。

事務局： 講評シートは、市のホームページ等に掲載したいと考えているが、特に建築部門に関しては個人の住宅であるため、所有者の方の意向も踏まえて検討していきたい。

委員： 他の都市の景観表彰制度の審査に関わっているが、港区では超高層、松戸市では老人ホームが多いなど、応募物件には都市の特徴がでてくる。今回応募された物件も、佐倉らしさがでてきていると感じるので、全体の特徴を総括すると「これこそが佐倉の景観」だということを考える良いきっかけになるのではないかと。今回の応募物件はどれも、自然や歴史の豊かさを継承しながら住まうということをよく考えたものばかりであり、佐倉に暮らす多くの人にも参考にしていただきたいエッセンスが詰まっている。そういった点を全体の印象として取りまとめられると今後活用の幅が広がるのではないかと。

木下会長： 総括的な話がある方が良いと感じるが、いかがだろうか。

事務局： 検討させていただきたい。

委員： 活動部門のタイトルが「～住宅地景観」、「～歴史的資源」というように体言止めになっているが、活動そのものを評価するものであるため、「～維持・発展」、「～受け継ぎ活かす」などの表記としてはどうか。

委員： 加賀清水の活動で、タイトルでは「佐倉藩主」、文中では「佐倉城主」となっている。「佐倉城主」に表現を統一してはどうか。また、「ゆかりの地」は数多くあるので、「ゆかりの湧水」としてはどうか。

木下会長： 前回の審議会でも、委員推薦の枠も設けてはどうかというご提案いただいた。その点について事務局よりご説明いただきたい。

事務局： 事務局と会長、副会長を中心に相談させていただいた結果、今の段階で新たに審議会委員推薦を位置付けていくためには一定の時間を要するため、今回はスケジュール的に難しいと判断し、今後、景観表彰制度の在り方を含めて検討していきたいと考えている。  
(事務局案について意見なし)

○次回の景観審議会の予定について

○閉会